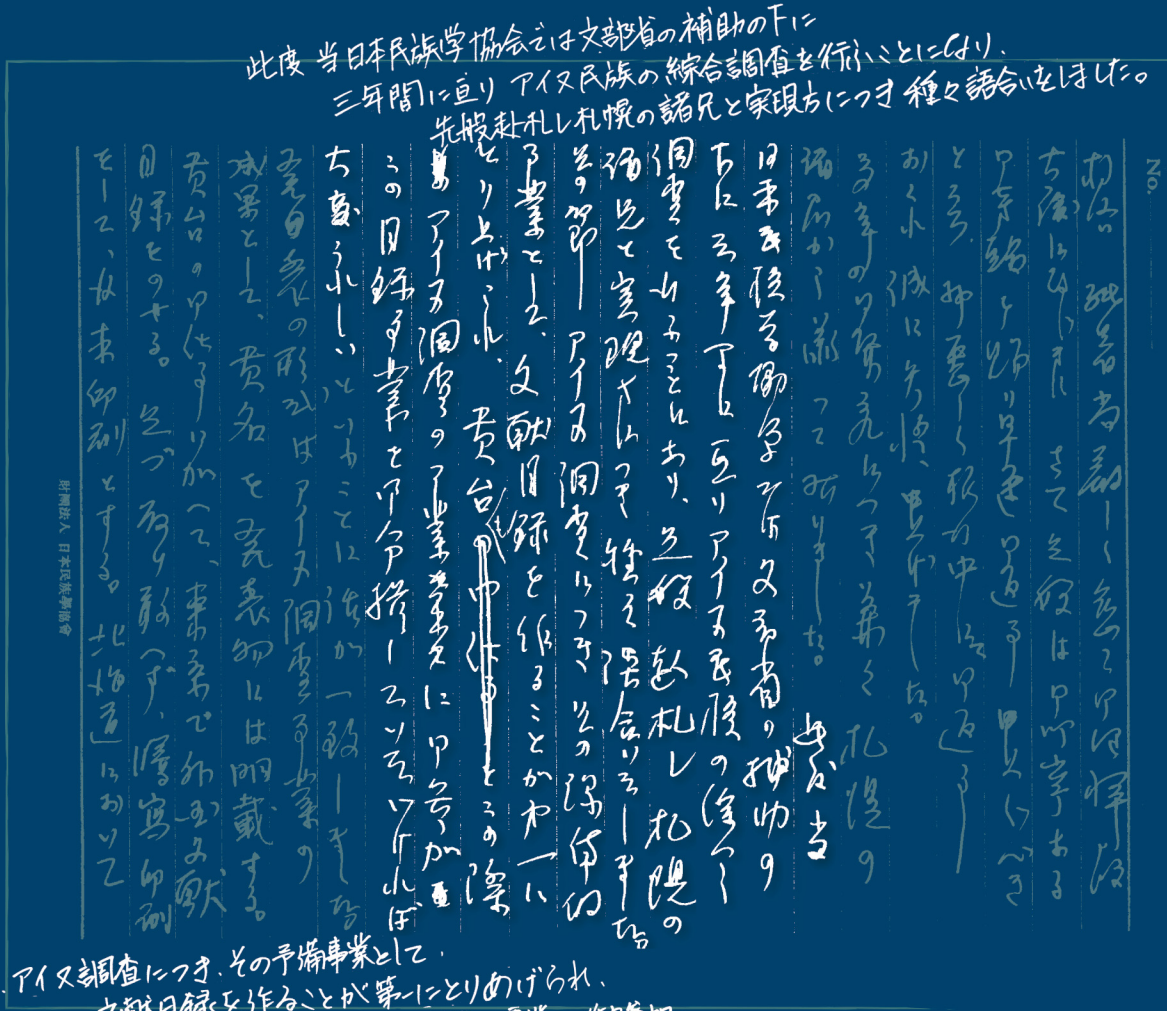


1950年代のアイヌ民族総合調査に学ぶ研究倫理

伊藤 敦規

国立民族学博物館 准教授 / 北海道大学 アイヌ・先住民研究センター 客員研究員



1950年9月13日、岡正雄は関正に手紙を宛て、アイヌ民族総合調査の予備調査として文献目録作成を依頼した。利尻町立博物館 関正文庫O35-1 (omote)

北海道各地で1950年代に行われた「アイヌ民族総合調査」(科研費課題:「アイヌ民族の実態調査総合研究」)には50名以上の研究者が参加しました。戦前の日本の学術活動からの方針転換や大展開を期待された本調査の目的、調査地・手法・項目、人的組織はどんなものだったのでしょうか。本講演は全3回の連続講演「アイヌ民族総合調査から再考する戦後日本の人類学史」の第一回として開催します。さまざまな資料を手がかりにアイヌ民族総合調査の全貌に迫るとともに、大規模プロジェクトでありながら「豫報的(速報的・暫定的)」成果しか刊行されなかった沈黙の理由を考察します。その背景には、調査継続を困難にした倫理的葛藤があったことを、参加者の証言から明らかにします。

※全3回の講演です。2,3回目(7/22,7/29)の講演はどなたでも参加いただけますが、より専門的な内容となります。詳細は裏面、もしくはアイヌ・先住民研究センターのHPをご覧ください。

7.15 (水曜日) 2026 18:30 ~ 20:00 開場 18:00

参加無料 事前予約制 会場とオンラインの同時開催

会場：北海道大学 学術交流会館 小講堂 / ZOOM
受付フォーム <https://x.gd/2usnf> もしくは右下のQRコードから

- ★お申込み期限：7月12日(日) 24:00まで
- ◆開催前日に登録メールアドレスへ参加情報が送付されます。
- ◆同一の方から複数回お申込みがあった場合、直近のお申込み情報を適用します。
- ◆受付期間後の受付は出来かねますので、ご了承下さい。
- ◆後日のオンデマンド配信は行っておりません。
- ◆受付完了後、欠席する際のご連絡は必要ありません。

